

## 苦難の時を乗り越え

学校長 檜尾尚樹

本荘高校勤務も二年目となりました。昨年は同窓会総会を始め、各地の支部同窓会に出席させていただきました。同窓生の皆様からは歓迎と激励のお言葉をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。皆様の母校への熱い思いと在校生への強い期待を受けとめ、本荘高校の発展のため今後も一層努力しなければという決意を新たにいたしました。

さて、令和二年度は新型コロナウイルス感染拡大により、生徒達を取り巻く学校生活も大きく変化しています。多くの学校行事は中止又は規模縮小での実施となりました。まず毎年6月に土日一般公開で行われてきた玲瓏祭は、生徒と職員のみで平日に開催しました。夏休み明けのクラス対抗では三密を避け、一部の競技でルールを変更しながらの実施でした。春に行われてきた運動会は9月に変更しました。しかしながら結果的には連日の猛暑による熱中症が懸念され、やむなく中止としました。

部活動では、これまでの練習の集大成となる試合や大会の多くが中止となりました。それぞれ目標を持ち、努力を積み重ねてきた生徒達にとっては非常に悔しい年になってしまいました。

このように、昨年には想像だにできなかった状況となってしまいましたが、現在三年生は最終目標である進路実現に向け猛暑の中、黙々と勉強に打ち込んでいます。また、三年生からバトンを引き継いだ一・二年生はより活気ある生徒会活動を目指すとともに、個人としても学業と部活動の両立を目標に頑張っています。本高の伝統である「右文尚武・質実剛健・玲瓏同氣」は確実に継承されていると感じています。

今年度の学校目標に「自らの力で人生を切り拓く生徒の育成」「心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を掲げました。コロナ禍での生徒会行事の実施では「出来ない理由を考える前にどうすれば出来るか考えて欲しい」と生徒達に話しました。本高の生徒であれば、知恵を出し合い、試行錯誤しながら新たなものを作り上げることが出来ると考えたからです。高校時代は多感で傷つきやすく、自分の無力さに悩むことが多い時期です。一方で周囲から様々な影響を受け、生涯の友や尊敬できる師と出会える貴重な三年間となり得る時期です。未来のことは誰にも分かりませんし、社会では正解のない問題も沢山あります。生徒達には本高での文武にわたる多くの学びを通して、どのような困難にも負けずに乗り越えてゆける「自信」、決してあきらめず未来への「希望」を持ち続けられる人間になることを強く望みます。

同窓生の皆様にはこれからも母校への御支援と御協力をいただけますようお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。